



Navigator //



# モザイクタイル Mosaic tile の散歩道

Vol.3

## 笠原神明宮 (笠原町)

美濃焼タイルとまちの素敵な出会い。

戦後のタイル製造の中心地は笠原町に移ります。牽引車となったのが笠原生まれの山内逸三氏。京都でタイル製造を学び昭和4年に帰郷、施釉磁器モザイクタイルの開発と量産化に取り組みました。

山内氏の代表作が笠原神明宮にあります。伊勢湾台風で本殿が倒壊、昭和46年、流行していた鉄筋コンクリート造で新築。先代宮司の「社殿を仰ぎ見るように」との願いから、一段と高いステージのように広がる壇を、階段も含めてタイルで覆い、欄干には笠原の8区を篆書で表した陶板。左右に広がる庇の左奥に回り込むと、山内氏の作品である陶壁「神馬 天空に駆ける」が目に入ります。当時の若手設計士と壮年期の山内氏によるアイデアあふれる建築作品。「陶壁には山内氏の素直な信仰心が表れている」とは、当時建設に関わった方の声です。

モザイクタイルミュージアム

学芸員 村山 閑

※本連載では、市内に点在する美濃焼タイルを使った建造物を紹介します